

2013 年度一般公開

一般公開委員長 長田 俊人

去る 10 月 25 日(金)に柏キャンパス一般公開が開催された。本年度は台風 27 号接近のため、本来予定されていた 25 日(金)・26 日(土)の 2 日間の開催期間を 25 日のみに短縮するという初めてのケースとなった。台風接近にも拘わらず初日の来場者数は例年並みであり、まずまずの結果であった。本稿では、2013 年度の一般公開の概要、経過、統計などを私見を交えて簡単にまとめておく。

1. 概要と準備

毎年、柏キャンパス本部から各部局の一般公開のキャッチコピーを求められる。本年度の物性研のコピーは板谷委員の発案による「モノ思いしませんか」に決まった。所内で公募しても応募がないため、例年、一般公開委員会で案を出し合い投票でコピーを決めている。このコピーとは特に関係なく各研究室に展示企画を募ったところ、最終的には図書室を含め 13 の企画の申し出があった。内容は図 1 のリーフレットの通りである。原則として、各研究室は 2 年に 1 回以上一般公開に参加することになっているが、最近は部門や複数の研究室で一緒に企画を行う場合が多く、企画件数は(研究室数÷2)より少なくなっている。展示場所が分散していると不便なため、一昨年度より展示を本館 6 階(+5 階)と低層棟に集めるようにした。液化室などが例年行っていたヘリウム風船の配布はお子さんに人気だったが、本年度はヘリウムの輸入事情から自粛することになった。企画番号(13)の「サイエンスカフェ」は、お茶とお菓子をつまみながら気軽にサイエンスの話聞く双方向の一般向け講演会で、講師には相応の能力が求められる。所内で講師を募ったところ、応募はなかったが、複数の方から前所長の家所員を推薦する御意見を頂いた。そこで家所員に伺ったところ快くお引き受け頂けた。柏キャンパス全体の合同企画として、毎年、一般聴衆向けの「特別講演会」が開催されるが、本年度は物性研から講演者を選出する年に当たっていた。これも所員会で候補者を募ったが応募はなかったので、委員長の一存で中性子施設の山室所員にお願いした。以前「天婦羅のパリパリはガラス転移である」という興味深いお話を伺い、感銘を受けたからである。

各研究室公開

(1)~(13)は構内中の番号に対応しています
●小中学生も楽しめる
●高校生・一般向け
●理工系大学生・研究者向け

光とナノの世界

(1) 光とレーザー
極限コヒーレント光科学研究センター(D棟120)

(2) 原子に触れよう、原子で遊ぶ、原子で描こう
長谷川・小森研究室(A棟6階大講義室)

極限を織る

(3) 世界一のパルス強磁場施設公開
国際超強磁場科学研究施設(C棟101, 102, 113 および K棟)

(4) 超高压で変化する物質
上床研究室(B棟105)

(5) かたちと量子
長田研究室(C棟111)

物性科学を楽しもう

(6) 不思議な石で遊ぶ
廣井研究室(A棟612)

(7) 新物質をつくる
物質合成室(A棟5階568, 570)

(8) 物性科学とスーパーコンピュータ
計算物質科学研究センター(A棟605前)

(9) 目で見える電磁気学
勝本研究室(A棟6階大講義室)

(10) ミクロの世界の旅人～中性子～
中性子科学研究施設(A棟613)

(11) 教科書に載っていない低温の世界
中辻研(A棟6階大講義室)

(12) プッセイロンで遊ぶ
理論部門(A棟614)

東京大学物性研究所の沿革

東京大学物性研究所は、わが国の物性研究の中心となる共同利用研究所として昭和32年(1957年)に東京都目黒区駒場に設立され、昭和35年(1960年)に東京都港区六本木に開所しました。以来、半世紀にわたり、物性科学研究に多大の成果をあげ、その存在は「ISSP」として国際的にも広く知られています。教員人事は公募制・任期制を採用し、大学院生や若手研究者を積極的に受け入れ、次世代を担う人材を輩出してきました。

平成12年(2000年)3月に柏キャンパスに移転しました。東京大学柏キャンパスは本郷・駒場と並ぶ東京大学の三大拠点の一つであり、従来の枠を超えた新しい学問領域の創設を理念としています。物性研究所は共同利用研究所として、種々の設備が設けられ、常時多数の所外の研究者が利用しています。また、国内・国際会議も多数開催され、物性科学の国内・国際センターとして一層の役割を期待されています。

アンケートにご協力下さい!

皆様のご意見・ご感想をお聞かせ下さい。受付にてアンケートにお答え頂いた方に、もちろん物性研究所 特製エコバッグか不織布ブックカバーを進呈致します。

東京大学柏キャンパス 物性研究所 一般公開

モノ思いしませんか

『物性犬』

2013年 10月25日(金)・26日(土)
10:00~16:30

公開内容

- *各研究室公開
 - ・光とナノの世界
 - ・極限を織る
 - ・物性科学を楽しもう
- *サイエンスカフェ
- *ガイドツアー
- *物性研スタンプラリー

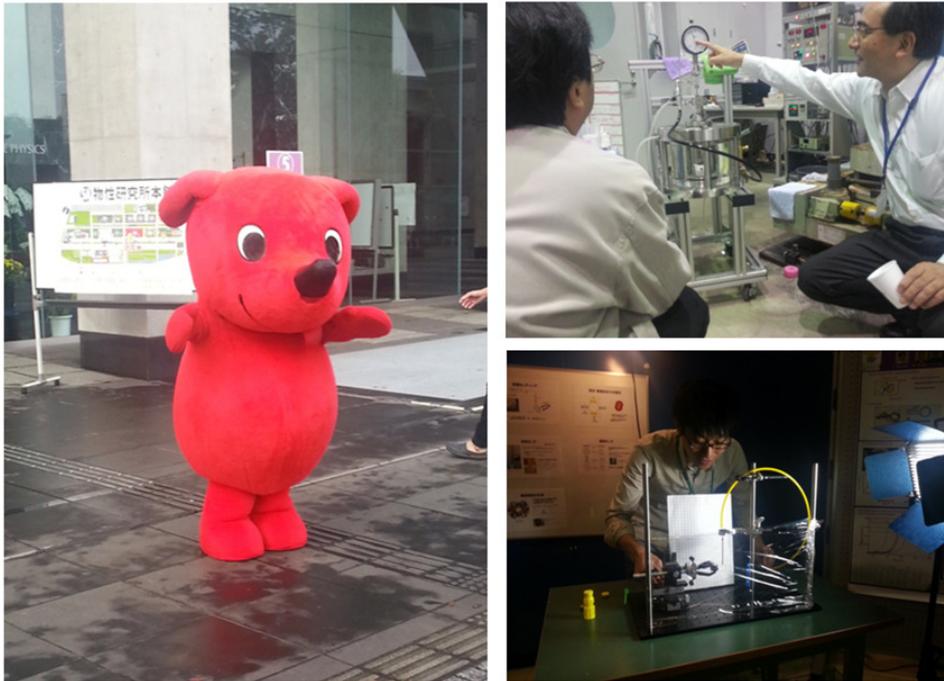


図2 10月25日の一般公開の様子

26日(土)の公開は中止となったが、幸いにも台風は本州縦断コースを逸れ、柏キャンパスに大きな被害はなかった(図3)。キャンパス外周に設けられた看板と、キャンパス入口(図3)に、一夜のうちに一般公開中止の表示がなされたことには驚いた(事務の皆様、御苦労様でした)。26日は休日ということで、多くのイベントが予定されていたが、全て中止となった。当然、山室所員の特別講演会と家所員のサイエンスカフェも中止である。両先生には講演の準備で多大の御苦労をおかけしたのに誠に残念である。来年の一般公開では是非とも講演して頂ければ幸いである。サイエンスカフェ用に作成したが、結局日の目を見なかった幻のポスターを図4に載せておく。

26日の一般公開終了後に予定されていた打上げパーティは延期され、28日(月)にカフェテリアで行われた。一般公開の3日後にもかかわらず盛会であった。例年のように一般公開の打上げを終了直後に行くと、来客の対応や片付けなどと重なって落ち着かないものだが、今回のように翌週に行うのも良いのではないかと思う。

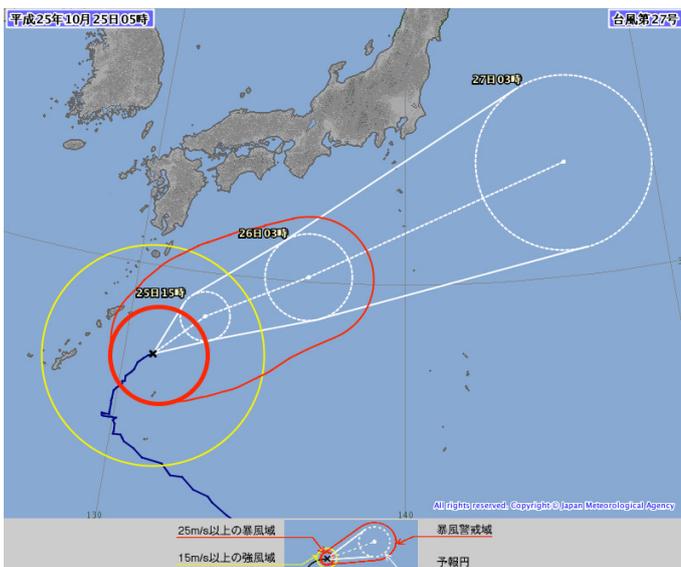


図3 台風27号の進路と26日の公開中止を告げる看板

サイエンスカフェ

お茶を片手に気軽に質問できる双方向的な講演会です。

科学の歴史から学ぶこと

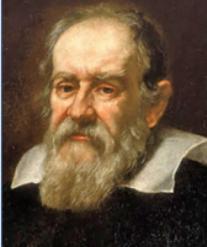
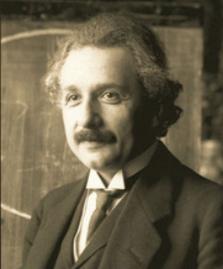




講師：家 泰弘 教授
(東京大学物性研究所)

日時：10月26日(土)
11:00-12:00

場所：A棟6階ラウンジ

古代ギリシャの自然哲学から中世・ルネッサンス期を経て近代科学、現代科学へとつながる人類の知の営みをいくつかのハイライトで振り返ります。そして現代社会に生きる私達が身につけたい科学的見方、科学研究の在り方、といった問題について参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

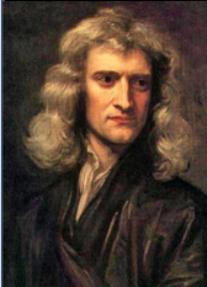



図4 サイエンスカフェ用に作成した幻のポスター

3. 統計

10月25日の物性研来場者数は676名であった。これは受付をした来場者の数である。雨天だった2011年度の初日の来場者数は698名、晴天だった2012年度の初日は661名であったことから、ほぼ平年並みの来場者があったことがわかる(ちなみに例年は2日目の土曜日は初日の金曜日の2倍弱の来場者がある)。台風接近などの悪条件を考えると十分成功だったのではないかと思う。

図5は、アンケートの集計結果に基づく、来場者についての統計データである(集計は物性研総務係の渡辺主任に行って頂いた)。来場者の大部分は柏・流山・野田各市のお住まいの一般の方で、リピーターの方が多いこともわかる。これは一般公開の周知にキャンパス外周に立てた看板やホームページが役立っていることとコンシステントである。年齢的にも大体バランスが取れているが、これから科学の道に進む中学生・高校生・大学生の割合が少ないことは大変残念なことである。こうした若い世代へのアピール方法は今後の課題となるだろう。

表1は、アンケートの集計結果に基づく、各研究室企画の評価である。企画の人気は展示内容だけではなく、展示場所などの要因にも大きく影響される。今後の参考にして頂ければ幸いである。

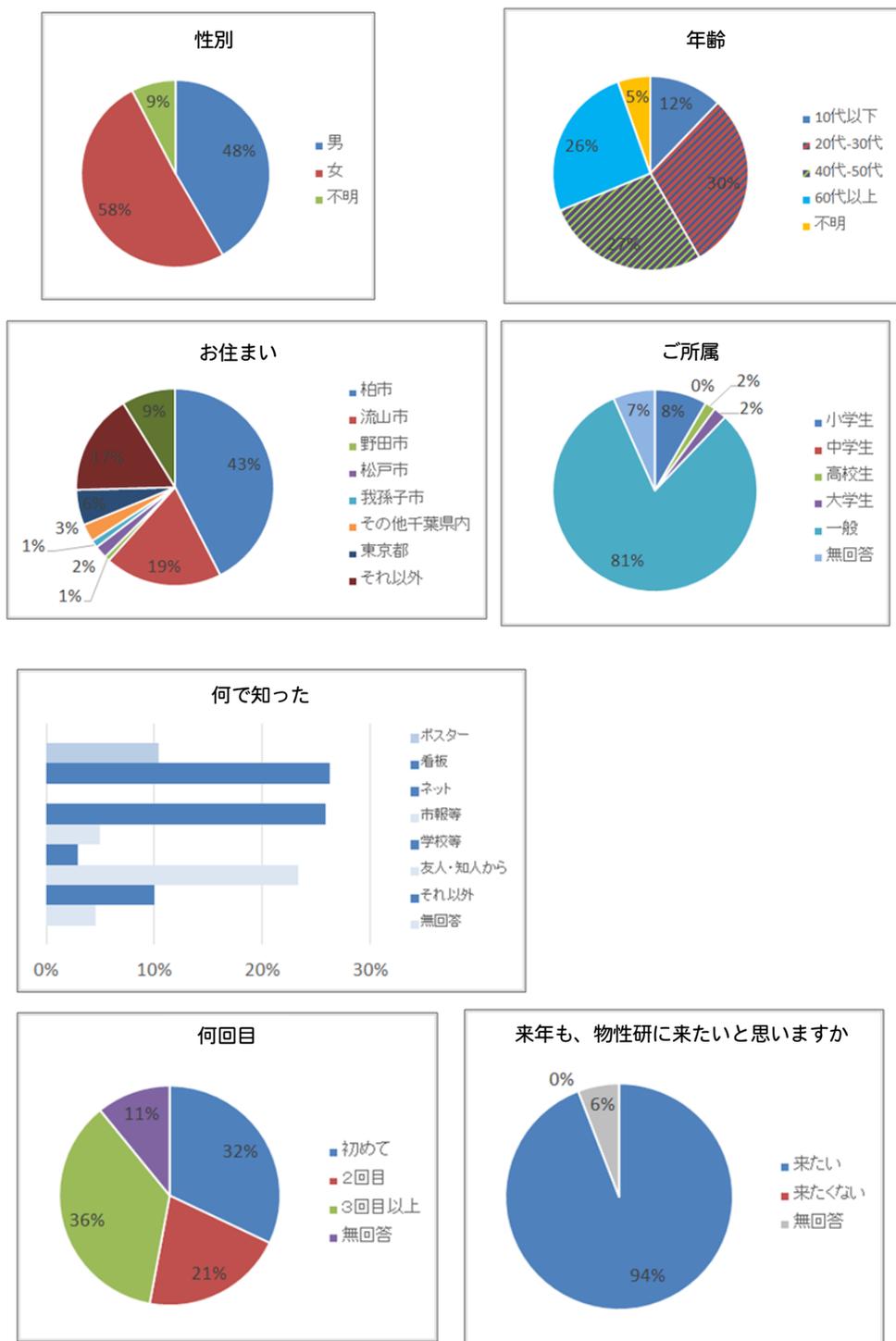


図5 来所者に関するアンケート集計結果

